

令和 3 年 6 月 1 日現在

機関番号：12613

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23265

研究課題名（和文）非再生産型エリートの階層移動 - 現代フランスにおけるエリート形成要因とその変動 -

研究課題名（英文）Hierarchical mobility of non-reproductive elites: factors shaping elites and their change in contemporary France

研究代表者

山崎 晶子 (YAMAZAKI, Akiko)

一橋大学・大学院社会学研究科・特任講師（ジュニアフェロー）

研究者番号：20843866

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、フランスの非再生産型エリート、すなわち恵まれない階層からエリート形成に至った人物のライフストーリーから、彼らがいかに階層を上昇移動したのか、その要因を探る目的で実施した。フランス各地における20代から50代の非再生産型エリート12名へのインタビュー調査とその分析、またエリート養成校であるグランゼコール準備学級における参与観察や教師へのインタビューも合わせて実施した。明らかになったのは次の点である。彼らは人生の節目において様々なキーパーソンに出会っており、それが階層上昇を助けているのではないかという点、また、準備学級も階級上昇を助ける役割を担っているという点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において代表者は、再生産メカニズムに依らないエリート形成の要因を個別具体的に探り、明らかにしたことにより、出自の乗り越え方、すなわち階級の流動性の可能性を見出すことができた。本研究は現代のフランス社会における階級の流動性を対象に行ったものであり、フランス社会やそのシステムを反映した成果に限定される。しかし、グローバル化が進む世界各国において、移民が定住し、その国で生きていく中で、出自を超えて階級を上昇移動するための方法のいくつかを示すことができたことが本研究の意義である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine the life stories of French non-reproductive elites, i.e. those who came from disadvantaged classes to form elites, in order to find out how they moved up the hierarchy. Interviews with 12 non-reproductive elites in their twenties to fifties in various parts of France were conducted and analysed, together with participant observations and interviews with teachers at the preparatory school for the elite, Grandes Ecoles.

As a result, the following points became clear. They have met various key people at different points in their lives, which may help them to move up the ladder. Preparatory classes also play a role in helping them to rise through the ranks.

研究分野：社会学、社会階層論

キーワード：再生産 エリート ライフストーリー フランス 高等教育

## 1. 研究開始当初の背景

フランスは学歴、特に学校歴がキャリアに直結する社会である。官民間わず、上級職に就くためには名門グランゼコールを経ることがほぼ必須である。では、名門グランゼコール入学試験で成功を収めるために必要なものは何か。P.ブルデューらによる数々の先行研究 (P. Bourdieu et J.-C. Passeron, *Les Héritiers*, Paris: Minuit, 1964; *La Reproduction*, Paris: Minuit, 1970 等) は、恵まれた出自を持つ者が親から継承したあらゆる資本を動員し、エリートとして再生産されるというメカニズムを明らかにしてきた。しかしこれらの先行研究から 40 年以上経った 21 世紀のフランスにおいてもエリートは親から継承した資本によって再生産され続けているのだろうか。

代表者は、現代フランスにおけるエリート形成要因に関心を持ち、言語資本としてのフランス語がエリート形成において担う役割に着目した質的調査を行ってきた。その結果、フランス語の卓越した運用能力が 21 世紀フランスにおいてもエリート形成において重要な位置づけを占めていることを明らかにした。この結果によれば、現代フランスにおいて、エリートの再生産メカニズムがいまだ健在なのではないかと考えられる。

一方、代表者が 20 代から 50 代のエリート 56 名を対象として行なってきたこれまでのインタビュー調査のデータからは、次のことが読み取れた。恵まれた家庭環境に育ったとは言えないものが約 2 割を占めており、そのほとんどが 20 代である。彼らは、親から継承した言語資本をほとんど持っていないと考えられる。個人の質的調査による限られたデータからの分析ではあるが、ここから 21 世紀現在のフランスにおいて、エリートは再生産されているとは限らないのではないかと推測された。

では、継承された資本を持たない彼らはいかに階層を乗り越え、エリート形成に至ったのか。これが本研究の核心をなす問いである。「エリート形成においてフランス語能力が重視され続けているにもかかわらず、言語資本を持たない者がエリート形成に至っている」という、これまでの調査結果からこの問いが生じた。その解明に向け、本研究ではエリート形成要因を言語に限らず、変動する社会の中で生きる個人の人生全体、能力全体に範囲を広げてみることで、エリート形成について包括的に捉えることを目指す。その調査結果から、非再生産型エリートがいかにエリートとして自己形成するに至るのかを明らかにし、さらにフランスにおける階層上昇はいかに達成されるのかを明らかにできると考える。

## 2. 研究の目的

恵まれない出自を持つ者がエリートとして階層を上昇移動することを可能とした要因とエリートとしての自己形成過程について、彼らのライフストーリーから個別具体的に明らかにすることによって、現代フランスにおける階層の上昇移動の可能性を示す。

## 3. 研究の方法

以下の 4 点により実施した。

パリ郊外のグランゼコール準備学級 (グランゼコール受験準備のための高等教育機関) 参与観察と生徒や教師に向けたインタビュー調査結果の分析

2019 年 2 月から 3 月にかけて、研究代表者は 4 校、計 13 時間の課外授業をビデオ撮影し、具体的教育実践を観察した。また、準備学級における教師の役割を中心とした 5 名の教師へのインタビュー調査、準備学級とエリート形成に関する考え等に関する 3 名の生徒へのインタビュー調査を行った。郊外にある準備学級は、パリの名門校とはレベルが異なる。ここには非再生産的出自の生徒が多く通っている。彼らは何を目指してここに通うのか。そして教師たちは彼らにどのような能力を身につけさせようとしているのか。この調査から、郊外のグランゼコール準備学級が担う役割を明らかにすることを目的とした。

地方のグランゼコール準備学級 1 校の参与観察と教師へのインタビュー調査 (2020 年 3 月実施)

地方の優秀な学生はパリの有名なグランゼコール準備学級に出てくることが多い。しかし、地方にもグランゼコール準備学級は少ないながら存在する。それらの学校は地方出身であることの不利さを超えた階級上昇のために機能しているのではないか。そこでトゥールーズの理系準備学級で一日授業のビデオ撮影と 1 名の教師へのインタビュー調査を実施した。

非再生産型エリートへのライフストーリー・インタビュー調査 (2020 年 2 月から 3 月実施)

これまでの現地調査で出会ったエリートたちからの紹介を中心に、スノーボール・サンプリングによって調査協力を得た非再生産的な出自を持つエリート 12 名へのライフストーリー・インタビューを行った。「子供の頃から現在に至る、あなたの人生の物語を語ってもらえませんか。あなたはかにかエリートとしてのポストを得たのでしょうか」という質問によって、非再生産型エリートの人生全体に関する語りを得て、そこからエリート形成に向けたあらゆる契機・転機や要因を具体的につかむことを目的とした。

上記 のデータ分析、論文執筆

上述した複数の質的調査により得られたデータから、非再生産型のエリート形成要因について分析する。その結果について論文執筆を行う（「一橋社会科学」に投稿予定）。

#### 4. 研究成果

本研究の主な成果は以下の通りである。

非再生産型エリートのエリート形成の要因として、彼らが人生の様々な節目でキーパーソンに出会っているということが共通点として見出せた。キーパーソンは教師だったり、近所の人であったり、移民コミュニティの繋がりから知り合った人だったりする。非再生産型エリートは、親が移民であるケースが多く、また移民でなくとも、親の学歴が高くない場合、キーパーソンと出会い、進路に関するアドバイスを受けるまではグランゼコールの存在など知らなかった。しかし、キーパーソンがその存在を彼らに伝え、グランゼコールへのアクセスのノウハウを伝えたのだという経験が語られた。すなわち、キーパーソンが階級上昇に向けた大きな役割を担っているのではないかと推定される。この点に関して検証に至るにはデータが足りず、本来は 2020 年 9 月に追加の現地調査の予定であったが、コロナの影響でできなかった。そこで、この点に関しては、現地調査が可能になったところからデータを追加し、今後検証を進めていく予定である。

また、非名門であるグランゼコール準備学級（パリ郊外や地方校）の役割も小さくはないということが明らかになった。ただし、名門グランゼコールへのアクセスやノウハウといった点ではやはりパリの名門準備学級には届かない。とは言え、大学に進学するのではなく、地方のグランゼコールや、その専門分野で二番手、三番手あたりにランク付けされるグランゼコールへのアクセスとして十分な役割を果たしている。

非再生産型エリートの語りの中で、階級上昇の要因の 1 つとして準備学級での同級生たちとの切磋琢磨が大きいという語りもあり、やはり準備学級の役割というものに関しては軽視できず、更なる調査、検証が必要になってくる。

上記の研究成果は、データが限られており、また現代フランス社会という限定はあるものの、階級の再生産メカニズムというものが存続しながらも、階級の上昇移動は決して不可能ではないという点を示している点でインパクトがある。今後、この研究で見えた成果について、検証が必要であるが、現在持っているデータの更なる分析や、フランスにおける最新の研究動向を見据えながら、現地調査が可能になった段階で検証に向けてデータの追加や分析を進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------